

## 友だちのひろがり願って

吉岡 晶子

以前担任したクラスの時、友だち関係で悩んだことがあった。一度できた仲間のつながりがとても強くてメンバーもあまり変化がなく、そこに育つものはあるのだろうが逆に仲間と離れる怖さがあつて自分で自分を制約したり友だち関係が広がるきっかけを逃していたように思う。相手が変わることによっていろいろな肌合いの友だちとかが

わってほしいし、いつもとは違う自分の気持ちや楽しさを感じてほしいと思っていたが、なかなかうまくいかなかった。仲良しがいるのはいいけれど友だちが広がるとまた楽しい事があることを実感してほしいし、そうなるようにはどうしたらよいただろうと常々思っていた。

現在四歳児クラスを担任している。三年保育の

メンバーと二年保育のメンバーが混ざっており、仲良し二人組がいくつかあった。A子とB夫、C子とD子、E子とF子、G子とH子。たがいに支え合っていて、登園するとお互いにさがしたり、いることを確認したりする毎日で、「大好き」と言ったりしていた。大好きな人がいてそれで幼稚園が楽しくなるのは大事なことで、それが基盤になるのもいいのかなと思いつつ、そこから仲間が増えて広がってほしいと思っていた。

一学期になってチャンスがやってきた。A子とB夫に変化があらわれはじめ、それをきっかけにあちこちで友だち関係が動いてきたのである。

### A子とB夫

A子とB夫の間ではB夫がA子を頼りきみで、少しA子ができることを負担に感じはじめてきていた。「B夫くん、ついてこないで」とはつきり

言っていることもあった。B夫は「先生、遊ぶう。A子ちゃんがだめだつて言うの」と少々なさないセリフを言ったりし、それでもB夫はA子のことが大好きなので「A子ちゃん、A子ちゃん」と声をかけていた。まだA子以外に声をかけようとか、かかわろうという気持ちはあまり見られなかった。それでもだんだん自分の道を歩み始めてきた。まずは自分でやりたいことをやる。それから「先生、食べに来て」「先生、こんなのできたよ、一緒にやろう」と声をかけてきた。

B夫にとつてはここをどう乗り切つて新しい関係をつくっていくのか、とても大事なときである。人との出会いやかかわりがひろがるように生かしたいと思い、一緒に砂遊びをしてB夫が作るお団子やプリンやケーキを食べたりしながら、仲間が一人でも二人でもふえるようにしたりした。今までは砂場に大勢いてもA子に気持ちは向いて

いたのが、だんだんほかの人にも目がいくようになってきて、大きな穴を掘ったり川を作ったりなどすることも変わってきた。また、ほかの友だちがしている事にも気付きはじめ、それまでしたことの無いピストル作りや戦いごっこ、ガオレンジャーごっこ、ウルトラマンごっこなどのキャラクターごっこもするようになり、しつかりメンバーの一員になって園庭を走り回っていた。

### C子とD子

A子は活発なC子と仲良くなり連日一緒に遊ぶようになった。そしてC子とD子の関係にも変化が見られるようになったのである。

C子とD子は三歳で入園し、ずーっと腐れ縁とでもいうような関係が続いていた。いつも一緒にいるわけではなく、おたがいに「C子ちゃんは?」「D子ちゃんは?」とさがして遊びはじめ

るが、そう長続きはせずにしよっちゅうけんかしてはなかなかおりしていた。

D子はC子がいることを支えとしていて、一人で遊んでも誰かと遊んでもつまらなくないとC子のことを思いだしてはさがしに行っていた。「入っていいよ」「来ていいよ」と来るものは拒まずで、自分のほうから友だちをすぐ求めたり仲間に入れてもらおうとはあまりしようとはしなかった。C子がA子と遊ぶようになってD子はちよつとさみしさがあったであろうがその時を一人でなんとかしようとしていた。絵本を見たりサッカーをしたり「先生、遊ぼう」と私のところに来りしていた。でも、D子はC子と遊びたいのでC子とA子が遊んでいるところになんばついていれてもらうようになった。そこにはA子と遊びたいI夫がいたり、I夫と遊びたいJ夫がいたりしてメンバーが多いことがよくあり、D子は自然に



いろいろな人と関わるようになった。今までよりうまく行かない事やトラブルが起きてしまい大声で泣くことも増えたが、相手の言い分を伝えたり説明をすると状況が分かって遊びをやめずその場に立ちとどまっていた。

「いれてって言ったなら、いいよって言ってくれたの。すごーくうれしかった」と話していた。入園してから一年半もたっているが、D子の気持ちの変化が感じられる。やっと「自分のほうから」というを意識して一歩踏み出したのではないだろうか。

先日、D子は四人で舞台の上でリボンを持って踊っていた。今まではかの三人ともあまり遊んだことはなかったし、ましてやそんなことをしたことはなかった。四人は思いっきり体を動かして楽しそうだったし、D子は終わった時に「あーおもしろかった」と頬をピンク色にしていた。ただ、

この時も途中で突然「C子ちゃんを呼んでくる」と行こうとしたので「今途中だし、C子ちゃんはお外で遊んでいるから大丈夫よ」と声をかけると、くるつと向きを変えてまた踊り始めたということがあった。「でも…」と「言わずよくもどつたと思う。」

### E子とF子

入園した時からの仲良しでいつも一緒に行動していた。E子はよくしゃべり、F子は無口で控え目。F子は自分の意思や考えはあるのにE子に気



をつかって合わせたり我慢しがちである。「F子ちゃんはどうしたいの?」「F子ちゃんは何がしたいの?」など先ずF子に声をかけるようにしてみたいが、F子はE子の顔をサッと見ることが多く、その様子が気になっていた。

十月になって二人に変化が見られるようになってきた。E子がF子を捜したり後をついて行くようになったのである。「先生、F子ちゃん知らない?どこにもいないの」と言われ、一緒にさがしてもなかなか見つからない時には、F子のこれまでも違う意思を感じたので、無理にさがさずに「こういうときは違う人と遊ぶ?」と言ったり、一緒に遊んだりすることにした。E子にとってはつらい時期で涙をながしたこともあった。そのうちにF子が誰かと遊んでいるところにE子が加わり、三人、四人と仲間がふえて来るようになって来た。E子はお帰りの時にF子の隣に座れなくても泣いたりせずにその状況を受け入れられるように

なった。F子もE子を避けてるわけではなく、E子との関係が以前より対等になったようである。あまり二人の結びつきが強いと他からはかわりにくさがあったのだろう。この二人の関係がゆるやかになったことでF子と遊びたい人が増えてきた。A子もそうだしG子もその一人である。

### G子とH子

G子はH子といつも一緒だった。H子をリードする、世話をするという気持ちでいることで自分の居場所を見つけていたように思える。そのG子もH子以外の友だちに気持ちが始まり、H子と一緒にではあるがE子やF子と砂場で泥んこになって遊び、四人でキヤーキヤー言いながら着替えてりしていた。それもまた楽しいのかそのようなことが数日続き、今までも戸外に出るようになり、体を動かすことが増えてきた。G子はF子と遊びたい、お弁当も食べたい、同じものも作りたい

いなどH子との間での動きとは違ってきた。

G子の変化を感じたのかH子の様子も変わって  
きた。朝来ると「きょうは一人で遊ぶ」と宣言し  
てG子が誘っても断つたり、みんなでリレーをす  
る時には「先生と走る」と言つて一人では走ろう  
としなかった。何回か一緒に走っているうちに、  
つないだ手を離して一人で走ろうになったが、  
H子は今までのような過ごし方のようにはいかな  
いことへの葛藤を表していた気がする。なにか変  
わろうとしているのだがどうして良いのか見つか  
らず葛藤しているH子に、がんばれ！ という気  
持ちだった。

このようにしてクラスのあちこちにメンバーの  
入れ替わりが見られるようになった。もう遊ばな  
いというのではなく、支え合っていた友だちとい  
る時もあるし違う時もあり、違っていても平気！  
という感じである。たまたま今回、同じ時期にバ

ズルのようにメンバーが動いたが、それぞれに一  
歩踏み出す準備ができていたのだろうか、安心で  
きる友だちがいたことが基盤にあつたからだろ  
う。だからこそ葛藤に立ち向かえたのではないだ  
ろうか。それぞれの大なり小なりの葛藤、そこを  
支えてあげることが大切なだろう。一歩踏み出  
して乗り越えた体験がきつとこれから先にも自分  
から人とかかわつたり、変わることに臆病になら  
ないことにつながるだろう。

今回、B夫、D子、E子、H子も「先生！」と  
自分が困っている時にちゃんとサインを出してく  
れたので、私もこのチャンス을大事にしなければ  
とかわれたが、もつとこちらが先に気付いてあ  
げなければならぬサインもあるだろう。それを  
見逃さないようにしてグラグラしている人を支  
え、友だち関係がひろがるようにしていきたい。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)